



すなど  
縄文漁りのムラ

国史跡

# 里浜貝塚

Satohama Shell Mounds



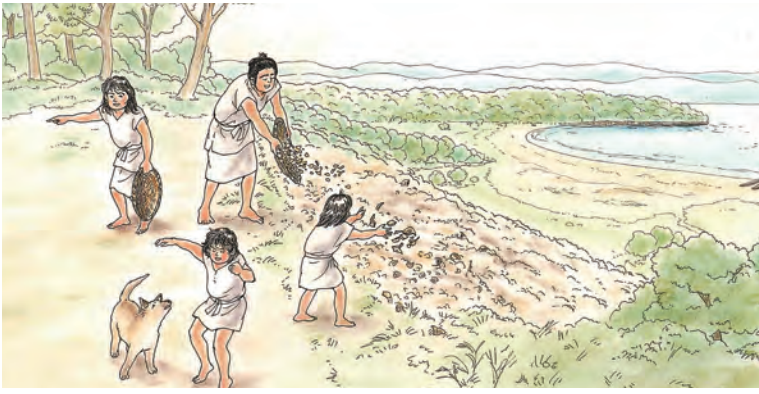
# 貝塚とは…

## 縄文人のゴミ捨て場

貝塚は、縄文人が大量の貝殻や獣・鳥・魚などの食べかす、こわれた土器や石器、骨・角・貝などで作った道具類を捨てた「ゴミ捨て場」です。

## 縄文のタイムカプセル

日本の土は酸性が強く、人間の骨も百年もすれば、跡形もなく土に帰ってしまいます。ところが、貝塚には、貝殻のカルシウム分によって土が中和されるため、通常では残らないような骨や角などの類も、良好な状態で保存されるのです。縄文人のすがたや当時の自然環境、食生活などを知る上で、貴重な情報を与えてくれます。



土器の出土状況 (台岡地点)

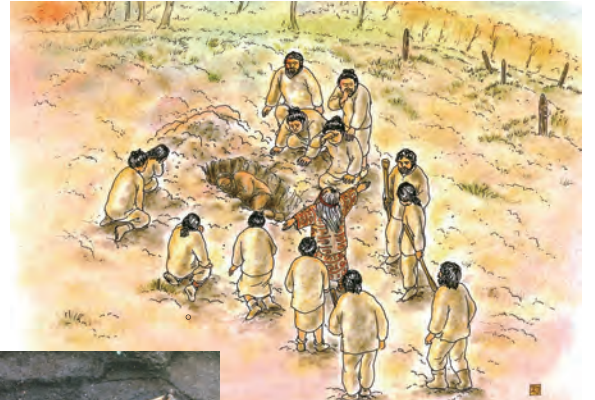


骨角器の出土状況 (西畑地点)



貝層断面 (西畑地点)

谷を埋めるように累々と積み重なった里浜縄文人のゴミ。アサリの純貝層、魚骨層、炭化物層等、縞状に積み重なったゴミを通して、彼らの暮らしをうかがうことができる。



大人の埋葬

イラスト 早川和子氏作画



人骨の埋葬状況 (台岡地点)

## 聖なる送り場

貝塚からは、ていねいに埋葬された人骨やイヌの骨も出土します。縄文人にとって、貝塚は、私たち現代人がイメージする単なる「ゴミ捨て場」ではなく、自然の恵みや道具に感謝するとともに、供養と再生とを祈った「送りの場」でもあったのです。

# 貝塚公園「松島」

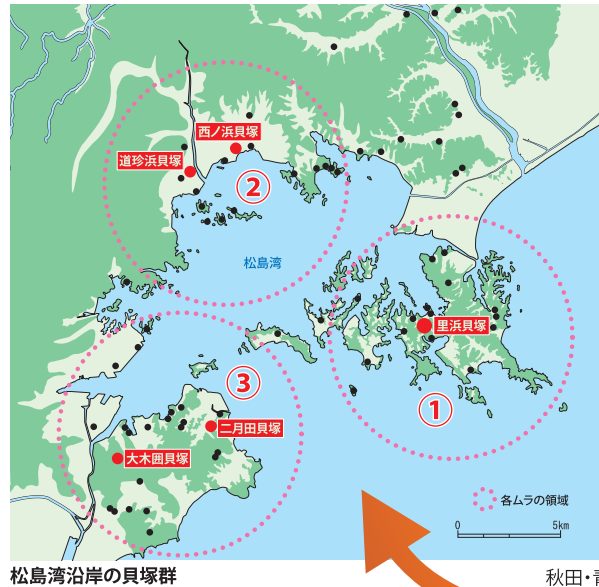
## 縄文時代の貝塚

全国には約2400か所の貝塚があります。太平洋側を中心に北から、オホーツク沿岸、内浦湾、三陸沿岸、仙台湾、いわき沿岸、霞ヶ浦沿岸、東京湾、伊勢湾、瀬戸内海沿岸、有明海沿岸などに多く形成されました。

## 松島湾沿岸貝塚群

宮城県は、千葉、茨城県に次いで貝塚の数が多く、約210か所の貝塚が知られています。このうち松島湾沿岸には、約70か所もの貝塚が集中しており、とくに貝塚の密集する地域として全国的に知られています。

松島湾沿岸の貝塚群は、①里浜貝塚を中心とした宮戸島遺跡群、②道珍浜貝塚・西ノ浜貝塚を中心とした松島遺跡群、③大木圍貝塚・二月田貝塚を中心とした七ヶ浜遺跡群からなります。松島湾は東西約10km、南北約8kmの小さな湾ですが、縄文時代を通じて、定住的な大規模遺跡を中心に径3~4kmほどの領域(縄張り)をもつ、3つの縄文のムラが共存していたと考えられます。



松島湾沿岸の貝塚群



貝塚のある地帯  
縄文時代の貝塚密集地帯  
岡村(1994)を一部改変



松本彦七郎博士



松本博士が発表した出土状況のスケッチ(『現代之科学』7-2)

Satohama 3 Shell Mounds

## 里浜貝塚の研究の歴史

日本の貝塚の歴史は、明治10年のE. S. モースによる東京都大森貝塚の発掘に始まりますが、里浜貝塚の研究の歴史も古く、明治時代の末頃には全国的にその名を知られていました。とくに、骨角製の漁具や珍しい鹿角製の腰飾りが注目され、N. G. マンローの『Prehistoric Japan(先史時代の日本)』や岸上謙吉の『Prehistoric fishing in japan(日本先史時代の漁労)』に紹介されています。

里浜貝塚の最初の学術的な調査は、大正7・8年に東北帝国大学理学部の松本彦七郎、同医学部の長谷部言人らによって行われました。層位的な発掘調査が行われ、土器型式編年研究の基礎を築くとともに、多数の縄文人骨が発見され、日本人論や古環境分析など、今日的な視点で優れた調査研究を実践しました。

里浜貝塚は、その後も加藤孝・後藤勝彦を中心とした宮戸島遺跡調査会や、藤沼邦彦・岡村道雄ら東北歴史資料館(現東北歴史博物館)によって継続的な調査が行われ、土器編年や骨角器の研究、縄文人の生業と食生活の復元など、多くの成果を上げてきました。



宮戸島遺跡調査会による台団地点の調査(昭和30年、齋藤良治氏提供)



寺下団地点人骨出土状況(昭和31年、「特別名勝松島」)



梨木地点の調査(昭和36年、後藤勝彦氏提供)

### 里浜貝塚の主な調査研究の歴史

調査年	主な調査者	調査地区	キーワード
明治30年代	高島多米治	不明	表採、鹿角製漁具、土偶
大正7・8年	東北帝国大学 松本彦七郎 早坂一郎 長谷部言人	寺下団地点	人種論 初めての学術発掘 集団墓《縄文人骨の発掘(14坪18体)》 層位的発掘《土器型式編年研究の基礎》 動物遺体分析《古環境の復元》
昭和27~37年	東北大学教育学部 宮戸島遺跡調査会	台団地点	縄文後・晩期、骨角製漁具・装身具
		寺下団地点	土器編年研究 縄文晩期・弥生、集団墓《縄文人骨21体》
		畑中地点	縄文中期、骨角製漁具
		梨木地点	縄文後期、縄文人骨(頭なし・再葬?)
昭和54~59年		西畑地点	縄文晩期、ゴミの最小単位《悉皆サンプリング》 動物遺体分析《縄文人の生業と食生活の復元》 豊富な骨角製漁具・装身具《国指定重要文化財》
昭和59~61年	東北歴史資料館 (現東北歴史博物館)	西畑北地点	縄文晩期の製塩跡
昭和61~62年		台団頂部地点	縄文前・中期
平成元~2年		梨木東地点	縄文前期
平成3年		台団(風越)地点	縄文後期、骨角製漁具・装身具
平成8年~	奥松島縄文村歴史資料館	西畑北地点	縄文晩期~弥生中期の製塩跡 縄文前・後期の泥炭層《植生復元、縄文前期のクリ林》 縄文中・後期の津波跡?
		西畑地点	ムラの範囲と内容把握 縄文後期~弥生の貝層 古代の竪穴住居跡、製塩土器 中近世の墓
		西畑西地点	古代の貝層
		里地点	縄文後期末の貝層、晩期の集団墓(縄文人骨3体)
		台団地点	縄文中期の貝層、晩期の居住域《竪穴住居跡》
		寺下団地点	縄文晩期の貝層



東北歴史資料館による西畑地点の調査(昭和54~59年)

## 里浜をめぐる海と森の環境

### 変わらぬ海の景観

松島湾は、氷河期時代以降の地球の温暖化にともなう海水面の上昇によって沈水し、形成されました。今日の姿になるのは、縄文人が松島湾沿岸に居住し、多くの貝塚を残し始める今から約7000年前頃のことです。その後も、海が近づいたり退いたり、小刻みな地形変化を繰り返しますが、湾内の沖積作用は鈍く、里浜のムラをめぐる海の景観は、縄文時代を通じて大きくは変わらなかったようです。

ただし、今から約3500年前の縄文時代後期後半頃を境に、主体となる貝がスガイからアサリへと推移しており、岩礫性から砂・砂泥性へと、海の底の状態が少しずつ変化した様子がうかがえます。(下図参照)

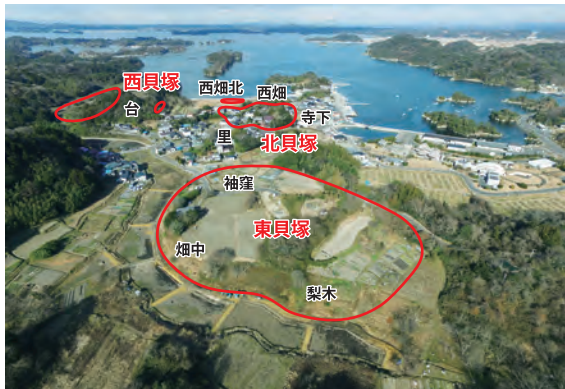
### 里浜人の生活を支えた森

里浜貝塚の地層に含まれる花粉や種実、木材などの分析の結果、里浜人の生活をはぐくんだ縄文の森は、クリ・トチノキ・オニグルミ・イヌシデ・アサダ・ブナ・コナラ・ケヤキ・ムクノキ・ウルシなどの落葉広葉樹林によって構成され、豊かな里山を形成していたことが明らかになりました。とくに、クリの花粉が占める割合が高く、少なくとも6500年以上も前から管理、栽培されていたと考えられています。

芭蕉がたたえた「松島」を代表するマツも、縄文時代から生えていたことが明らかになっていますが、現在のようなマツが織りなす美しい景観となるのは1000年～500年くらい前のことだったようです。



松島湾と里浜貝塚



北貝塚 (さとはま縄文の里 史跡公園、西畑・西畑北地点)

## 里浜のムラ

里浜貝塚は、松島湾内最大の島・宮戸島にあります。東西約640m、南北約200mの規模をもつ日本最大級の貝塚です。「優れた骨角器や多種多様な生活関連の遺物が出土し、当時の生活を復元する上で貴重な情報を提供する貴重な遺跡」として、平成7年国史跡に指定されました。

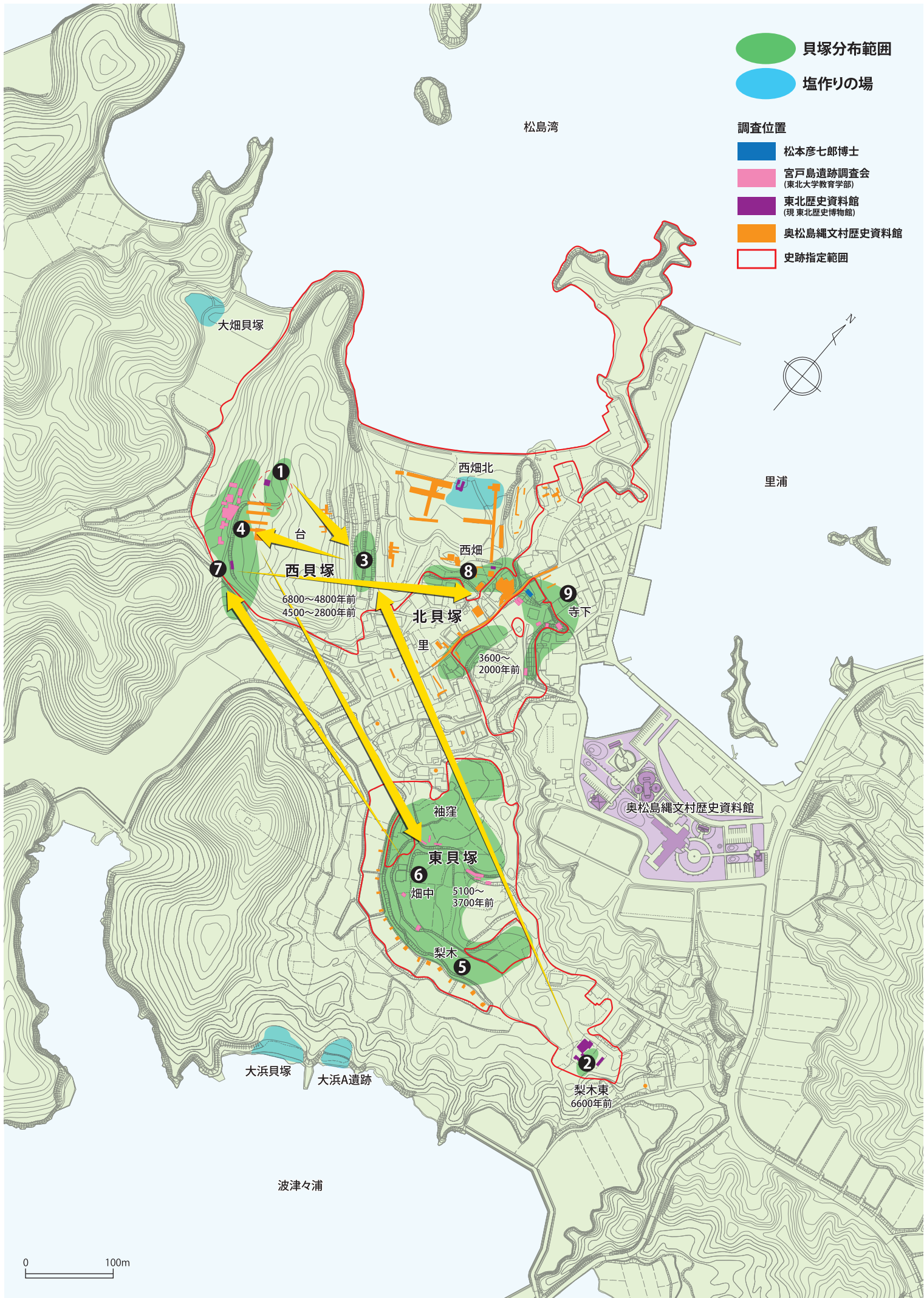
貝塚は、西貝塚(台囲頂部・東斜面・風越地点)、東貝塚(梨木・畑中・袖窪地点)、北貝塚(寺下囲・西畑・里地点)の3つの貝塚群からなります。里浜人は「西貝塚(前期初頭～中期中葉)→東貝塚(中期中葉～後期中葉)→西貝塚(後期前葉～晩期中葉)→北貝塚(後期末～弥生時代中期)」と数百年から千年単位でムラを移動しながら、各地点に長期間にわたって貝塚を形成しました。また、浜辺では塩作りや貝剥き作業場の跡が見つかっています(西畑北地点)。

東日本大震災では、島の四つの浜のうち、外洋に面した室浜・大浜・月浜の三集落が壊滅的な被害を受けましたが、里浜貝塚と重複して、おもに高台にある里集落は、津波による被害が少なく済みしました。里浜の縄文人は海辺で漁や貝剥き、塩作りなどを行い、集落は海を臨む丘の上を選んで暮らしていたようです。西畑北地点では、縄文時代中期(約4600年前)と後・晩期(約3100年もしくは3500～3600年前)の津波堆積層が確認されていますが、高台にあった当時のムラは津波の被害に遭うことはなかったはずで

地点名	貝塚の標高 0 10 20 30m	縄文時代				弥生時代 2000年前	貝の種類 (岩場の貝と砂・泥海の貝の比率)
		前期	中期	後期	晩期		
		6000	5000	4000	3000		
西貝塚	① 台囲頂部						岩場の貝
	⑤ 台囲東斜面						岩場の貝
	④ 台囲						砂・砂泥の貝
	⑦ 台囲風越						砂・砂泥の貝
東貝塚	② 梨木東						砂・砂泥の貝
	⑤ 梨木						砂・砂泥の貝
	⑥ 畑中・袖窪						砂・砂泥の貝
北貝塚	⑧ 西畑						砂・砂泥の貝
	⑨ 寺下囲						砂・砂泥の貝

里浜のムラの変遷と貝の種類の変化

※各地点の番号は、右の地形図に符号する。



里浜貝塚全体図

# 里浜人の暮らし

貝塚から出土した道具類や食べかすなどを詳しく調べると、漁や狩りをはじめとする季節ごとの生業や、縄文人の食生活の実態が明らかになります。

里浜人は、四季折々の自然の恵みを、効率よく取り入れた生活を営みました。春と秋に集中する季節の恵みを、食料が不足する冬や盛夏に備えて保存食料としたり、また漁や狩りの合間には道具作りを行い、来るべき季節に備えました。実に計画的な暮らしぶりだったといえます。

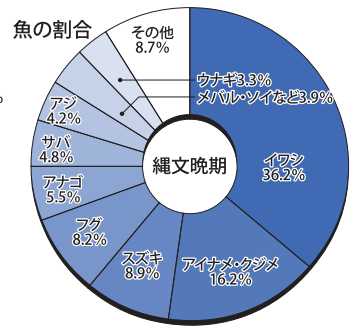
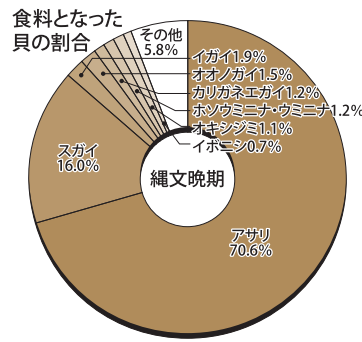
里浜人の植物利用については、詳しいことはわかりませんが、人骨や花粉などの分析によると、木の実やキノコ・山菜・イモ類などの植物質食料もかなり利用していたと考えられ、里浜人の食生活はバラエティーに富んだ豊かなものであったと思われる。

**春** アサリを中心とした貝や海藻類の採取。内湾に群れをなして回遊してきたイワシやフグなどを漁獲。山ではゴゴミやゼンマイなどの山菜を採取。

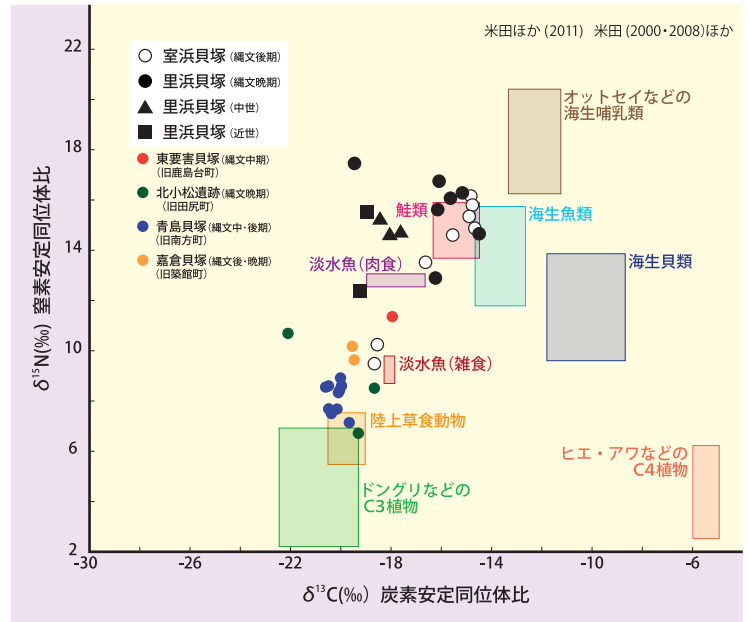
**夏** 貝やウニ・ガザミなどの採取。外洋でのマダイ・クロダイ・大型のスズキ・ブリ・マグロなどを漁獲。塩作り。

**秋** 内湾に回遊してきたアジ・サバを漁獲。山ではクリ・クルミ・トチの実やキノコを集中採集。

**冬** シカ・イノシシなどの獣やガン・カモなどの冬鳥を捕獲。

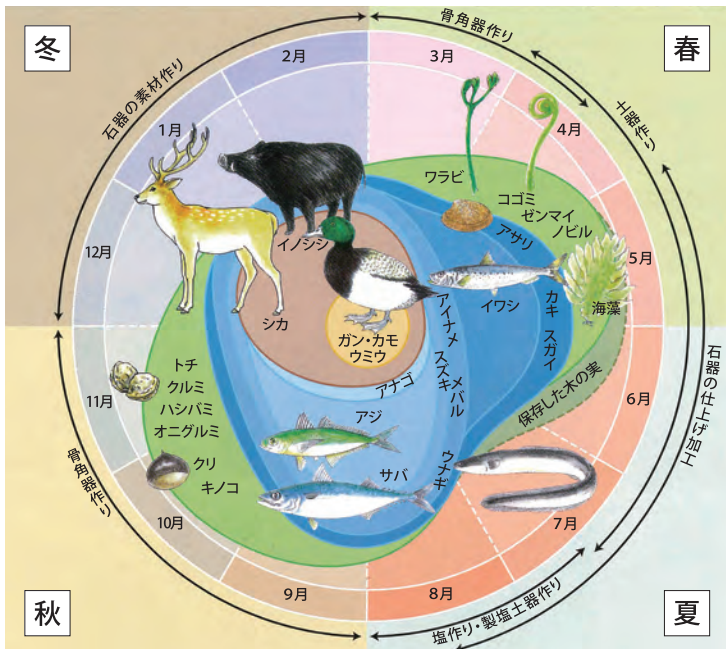


里浜人が漁獲した魚貝類 (西畑地点)



人骨から食生態を読む (人骨の炭素・窒素の同位体比)

人骨に含まれる食料資源の炭素・窒素の同位体比の分布を調べた結果、宮戸島(里浜・室浜)の縄文人はシカ・イノシシなどの獣や植物質食料よりも、魚や貝などの海産資源を多く摂っていたことが明らかになった。



縄文人の食料・生業カレンダー  
イラスト 早川和子氏作画  
図は、土ごと回収した縄文人のゴミを調べ、貝殻や骨に刻まれた成長線、魚の回遊、鳥の渡りの習性などをもとに、ゴミのかたまりごとに季節を推定し、食料獲得や道具作りなどの仕事の内容を1年間のカレンダーにまとめたものである。動・植物質食料の割合は、人骨の炭素・窒素同位体分析や現代の狩猟採集民の食料割合を参考にしている。

## 里浜人骨から分かること

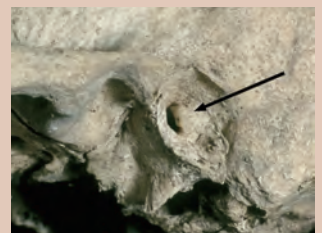
里浜貝塚からは、これまでに60体を超える縄文人骨が発掘されている。その特徴は顔面が幅広く低く、彫りの深い顔立ち。眼窩はほぼ長方形。前歯は毛抜き状に噛み合わせる「鉗子状咬合」で、反つ歯の程度が弱いなど、典型的な縄文人の特徴を示している。成人や冠婚葬祭などの通過儀礼としての「抜歯」も、上顎の大歯や側切歯に多く見られる。

また、素潜り漁をする人に特徴的な「外耳道骨腫」、病歴や栄養状態・食事事情を示す「虫歯」「エナメル質減形成」、しゃがむ姿勢の多かったことを示す「踵踞面形成」などのさまざまな生活痕や病痕も観察されている。

最近では理化学的な分析によって、生前の食生活の復元(炭素・窒素同位体分析)や正確な年代測定が行われ、人骨からも里浜ムラの人の暮らしぶりが明らかになってきている。



里浜人女性の復顔像(川久保善智氏制作)  
18~20歳位の成人女性。解剖学データに基づきながら頭骨に肉付けし、縄文人の直系と考えられているアイヌの顔立ちを参考に復顔した。



外耳道骨腫 (耳の穴の中にできた瘤)



虫歯



## 潮

干狩り

里浜ムラの春は、ムラびと総出の潮干狩りから始まります。大量に採ったアサリは、土器で煮て干し貝にし、保存食にしたり、山のムラとの交易品にしました。



## 塩

作り

真夏のむせ返るような暑さの中、里浜人は海水を土器で煮詰めて、保存や味付け用の塩をつくりました。できた塩は、遠い山のムラまで運ばれました。



製塩土器 (西畑地点)



## 木の実の採集

秋になると、ムラびと総出で木の実を採集し、穴を掘って蓄えました。里浜ムラでは、6500年も前から、クリの管理・栽培が行われていました。



縄文中期の漁具 (梨木・畑中地点)



縄文後・晩期の漁具 (台岡地点)



## 漁

初夏から秋にかけて、岸に近づいてくるスズキ、マダイ、クロダイ、マグロ、ブリなどの大型魚を釣り針やヤス、モリを使って捕りました。

# 貝塚からわかる 里浜人の四季と生業



## 狩り

木々が枯れて見通しがきく、冬場が狩りの季節。男たちは、シカやイノシシなど獣を、イヌを使って集団で追い込み、弓矢でしとめました。海では、ウミウ、ガンカモ類などの冬鳥を捕りました。



狩りの道具 (台岡地点)



石鏃が刺さったシカの背骨 (台岡地点)

Satohama Shell Mounds



4900年前の土器 (台囲地点)



3300年前の土器 (台囲風越地点)



2800年前の土器 (西畑地点) (重要文化財)

器



装



土製耳飾り・玉 (台囲地点)



骨角製ヘアピン (台囲地点)



骨角・貝製装身具 (台囲・寺下囲・里地点)



腰飾り (台囲地点)



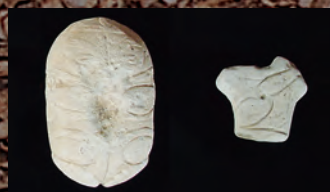
骨角・牙製装身具 (西畑地点) (重要文化財)



腰飾り (西畑地点) (重要文化財)



土偶 (台囲・寺下囲地点)



岩偶・岩版 (台囲地点)



石棒 (西畑・台囲地点)  
右端は土製品

骨刀  
(里地点)

祈



《重要文化財》は東北歴史博物館所蔵